

- のび太は発達障害？（発達障害の心理学に見る）

佛教大学 教育学部2回生 下津聖平

本題に入る前に、発達障害を簡単に説明すると、先天的に脳の働きが他の人とは違うという意味です。多くの人は、のび太はあまり頭がよくないと感じていると思います。この事は一部の研究者の人も同じような事を考えています。例えば、司馬理英子という人は、のび太は ADHD ではないかと考えました。ADHD とは、注意欠如・多動症と言われる病気で、簡単に言えば、注意力不足で、落ち着いていられないというような症状が酷い人に向けて使う言葉です。ちなみに、司馬さんは、のび太だけでなく、ジャイアンも ADHD だと考え、いじめっ子といじめられっ子は同じ病を持っていると考えました。今回私は、「知的能力障害群」, 「コミュニケーション症群」, 「自閉症スペクトラム症群 (ASD)」, 「注意欠如・多動症 (ADHD)」, 「学習障害 (LD)」, 「運動症群」の6つの発達障害に照らし合わせようと考えました。

まずは、「知的能力障害群」について、考えていきたいと思います。この障害を簡単に説明すると IQ (知能指数。知的能力の平均を100とした物。) が異常に低いという物です。IQ が70を下回るとこの障害の可能性があると言われます。IQ に関連した話だと、「顔かかか IQ か」(藤子・F・不二雄大全集ドラえもん16巻)で、のび太の IQ についてのコマがありました。数値がいくらかは記載されていませんでしたが、高くはなかったです。この話からのび太が知的能力障害群か判断するのは難しいです。IQ が低いと一番最初におこりうるのは、対人関係が上手くいかないという事です。のび太は、ジャイアンやスネ夫に殴られる事があり、人間関係が上手くいっていないように見えるかもしれませんが、時には、スネ夫やジャイアンと一緒に冒険をする事もあります。また、のび太には、しずかちゃんという異性の友達があります。しずかちゃんとも喧嘩をする事もあり、人間関係が上手くいっていないようにも見えますが、異性の友達がいるという意味では、のび太は、そこまで人間関係が上手くいっていないわけではないと感じます。また、IQ が低すぎると1人で生活する事ができず、介護のように誰かに世話をしてもらわないといけないそうです。大人になったのび太は、環境保護局の自然調査員として働く事ができ、しずかちゃんとも結婚できました。なので、のび太は、「知的能力障害群」ではないと感じます。

次に、「コミュニケーション症群」について考えていきたいと思います。この障害は、語彙が乏しいがゆえに文章を組み立てられず相手に言いたい事を上手く伝えられなかったり、吃音(「あっ、ありがとう」のように、言葉を話す時につまる事。)が多かったり、滑舌が悪く何を言っているのか分かりにくい、会話の中での暗黙のルールが理解できないなどという特徴があります。これに関しては、マンガでは非常に分かりにくいと感じます。マンガは、文字で書かれているので、そのキャラクターがどんな口調で喋っているのか分からないからです。そもそも、文章を組み立てる事ができず相手に言いたい事を伝えられないとマンガとして成り立たないというのも要因の1つだと感じます。もし、とある

マンガで何を言っているのか分からないというような事があれば、マンガを描いている人がこの障害を持っているのかもしれませんが。しかし、この障害には1つだけ、のび太の行動から見える点があると思います。会話の中での暗黙のルールが理解できるかどうかという点です。のび太は、ジャイアンと話す時にトラブルになる事がよくあります。これに対して、スネ夫は、会話の暗黙のルールを理解しているせいか、ジャイアンとトラブルになる事はほとんどありません（ジャイアンから理不尽に殴られる事はありますが）。また、のび太は、しずかちゃんと出木杉との会話の中に介入する事がありますが、その時、のび太は、しずかちゃんと話したいと考えるせいか、会話の中での暗黙のルールを理解していないという事がよくあります。DSM-5（発達障害かどうかの基準が載っているマニュアルブック）でも、この点に関しては、曖昧ではっきりしておらず、むしろ、次に述べる「自閉症スペクトラム症群（ASD）」と診断される事も多いです。なので、のび太は、「コミュニケーション症群」である可能性は低いと感じます。

次に、「自閉症スペクトラム症群（ASD）」について考えていきたいと思います。この障害の特徴は、社会的コミュニケーションの障害（会話を上手く続けられる力があるか、対人関係が上手くいっているか）、限定された反復的な行動様式（同じ行動や言葉を繰り返す、特定の事にしか興味を持ってない、中途半端な事はしない）の2種類に分けられます。「コミュニケーション症群」の所でも述べましたが、会話を上手く続けられないとそもそもマンガとして成り立たないので、この点でのび太が発達障害であるかを判断するのは難しいと感じます。「知的能力障害群」の所でも述べましたが、しずかちゃんという異性の仲の良い友達がいる点で、のび太はある程度人間関係が上手くいっていると感じます。なので、のび太は、社会的コミュニケーションの障害に該当しないと感じます。では、限定された反復的な行動様式はどうでしょうか？ のび太は、困った時に「ドラえもん(ノリ)シクシク…」のように泣きながら話しかけます。厳密に数えたわけではないので、正確な回数までは分かりませんが、この言葉からストーリーが展開する事も多いのではないのでしょうか？ 同じ行動や言葉を繰り返すというのは、のび太の特徴でもあると思います。また、のび太は、よくマンガを読んでいます。ドラえもんの世界に何種類のマンガがあり、そのマンガにどんな作品があるのか全ては分かりませんが、恐らく様々な作品が掲載されているのでしょうか。また、のび太はたまにゲームをします。彼がしているゲームの種類も1種類ではないと考えられます。恐らく複数あるでしょう。また、「○○のマンガを読んだ」のような発言をのび太はしますが、毎回同じマンガの事を言っていないので、この点からは、のび太は、特定の事にしか興味を持ってないというような点はないと考えられます。一方、のび太は、ゲームとマンガの他にもあやとり、射的、昼寝という素晴らしい特技を持っています。ドラえもんのひみつ道具により、これら3つそれぞれができれば偉いというような世界が実現された事があります。また、のび太は、あやとりで凄い物ができたときにみんなに見せつけて教えてあげようとして周りが見えなくなる事があり、射的でもあやとり同様の事が言えます。昼寝に至っては、寝すぎて宿題ができなかったり、

約束を守れなかったりという事もよくあります。3つの特技を見るのであれば、のび太は特定の事にしか興味を持ってないと考える事もできます。また、好きな事のせいで社会生活に影響があれば、特定の事にしか興味を持ってないという点が当てはまる可能性が高いともいわれています。以上の事から、のび太には、特定の事にしか興味を持ってないという点は当てはまると感じます。また、「中途半端な事はしない」はどうでしょうか？例えば、「かんせいウエーブ」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん12巻）では、のび太は、宿題と写生と本の整理と3つのしたい事がありましたが、どれも上手くできなかつたので、途中で投げかけました。やりたい事が複数あった場合にどれをやるかを選べずに何もできないのもこの障害の特徴です。また、宿題を忘れるというような事をのび太はよくします。宿題を間違えすぎたら先生に怒られるからだとか考えるのが一般的ですが、のび太自身が中途半端な事をするのが苦手だからではないのでしょうか。宿題に関しては、のび太は途中までしかやらなかつたというようなシーンは、見た事がありません。ほとんどの場合はやらず、たまに全て終わらせたというような感じです。この事から、のび太は中途半端な事はしないという点が当てはまると感じます。以上の事から、のび太は、「限定された反復的な行動様式」が該当すると考えられます。

次に、「注意欠如・多動症（ADHD）」について考えていきたいと思ひます。この障害は、「不注意」、「多動性—衝動性」の2種類に分けられます。簡単に言うと、前者は注意不足で、後者は、落ち着きがないという事です。この章の冒頭でも話した通り、のび太とジャイアンはこの障害に当てはまると司馬理英子さんは考えます。前者が、のび太。後者が、ジャイアンだと。私よりも素晴らしい意見を書いている方がいるので、あまり述べる意味がないかもしれませんが、司馬さんが言う事に補足する形で説明したいと思ひます。結論から言うと、のび太は、「注意欠如・多動症（ADHD）」の「不注意」が該当すると考えられます。この障害の人の精神年齢は、実際の7割ほどしかありません。例えば、「弟をつくろう」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん4巻）では、のび太は、自分の精神年齢が4歳だと思わせるようなシーンがありました。設定上、のび太の実年齢は10歳なので、7割にも満たないという事が分かります。また、この障害を持っている人は、1人で遊ぶ事が多いという特徴も持っています。「自閉症スペクトラム症群（ASD）」の所でも述べた通り、のび太は、あやとり、射的、昼寝が得意です。射的は例外かもしれませんが、これら3つの事をのび太はよく1人でしています。スネ夫やジャイアンと比べても1人でいる事が多いキャラクターだと感じます。また、得意な事になると他の誰よりも挫けないという特徴があります。先ほどの趣味を例に出しても、あやとりは、世界大会に出場できるレベル、昼寝も世界大会に出場できるレベル、射的に至っては、宇宙のガンファイターと戦えるレベルの能力があります。この事からも、のび太は得意な事になると挫けない力を持っていると感じます。また自発的な主張をあまりしないというのも特徴です。のび太はよくドラえもんに泣きついているから主張ばかりしていると思ひ方があるかもしれませんが、それは、自分の欲求を叶える物ではなく、いじめられて

悔しいから仕返しをしたいと言っているだけではないでしょうか。なので、のび太自身が自らの願望をドラえもんに叶えてもらう事は少ないと感じます。また、この障害は、2つ以上の場面で見られないと、診断されないそうです（例えば、学校と家庭の両方で症状が見られた場合はこの障害と診断されますが、どちらかの場面でしか症状が見られないとそう診断はされないという意味）。のび太の場合、家でも学校でも両方の場面で、注意不足で、忘れっぽいなどのシーンが明らかに見られるのではないのでしょうか。

次に、「学習障害（LD）」について考えていきたいと思います。この障害は、読む事、書く事、計算する事が困難であるという物です。それぞれ、読字障害、書字障害、計算障害と分けて言われる事もあります。のび太はどうでしょうか。彼は、テストでよく0点を取ります。これは、勉強をしないから取れないのでしょうか？ それとも、勉強をしているのに、障害のせいで取れないのでしょうか？ 「のび太の0点脱出作戦」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん14巻）では、のび太は、テスト勉強を自力で頑張って65点を取っていました。マンガを見た所だと何の教科かは分かりませんが（アニメの時は国語になっていました）。他にも、「人間カメラはそれなりに写る」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん9巻）、「具象化鏡」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん13巻）からも、のび太は自力で勉強をすると65点は取れるそうです。ここで問題になるのは、のび太がどれくらい勉強をして、65点を取ったかという事です。例えば、勉強をせずに65点を取ると、遊ぶ時間を捨てて勉強をした結果が65点だったのでは、頭の良さに違いがあると感じます。実際、この障害を持っている人は普通の人より1回で分かる事を10回も20回も聞かないと分からないという事がよくあります。もう1つ言うなら、普段のび太たちが受けているテストの平均点が何点ぐらいかという事です。のび太たちの世界のテストに解けない問題があるというのは有名な話ですよ。これだけでは不十分なので、3つそれぞれの事について考えていきたいと思います。まずは、読字障害です。漢字からも想像できるように、「読む」のが困難という意味です。具体的には、文章の意味を理解できない、文章を読む時に区切らなくていい所で区切ってしまう、文字を1文字1文字追いかけるように読む事がよくある、本を読むとすぐに疲れるなどの特徴があります。正しい読み方ができているかどうかは、マンガだとどうしても分かりませんが、アニメ版だと「熱演カチンコ」（2012年放送）で、のび太がマンガを声に出して読むシーンがありました。その際、のび太は、感情がこもっておらず、正に、文字を追いかけるように区切らなくてもいい所で区切って読んでいた感じでした。他にも、「本はおいしく読もう」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん11巻）では、本を少し読むだけで頭が痛くなるというような事を言うのび太を見られます。この他にも、のび太は文章を読むのが得意でないと分かる場面は多くあります。しかし、のび太はマンガを好んで読んでいます。読字障害の人は、マンガを読むのでさえ嫌で困難な事もよくあります。しかし、マンガは文字ばかりではなく絵も含まれています。また、のび太の読む力が人より劣っており、なおかつ、日常生活で苦勞をしている可能性は高いと思います。この事からのび太が、「学習障害

「LD」の読字障害に該当する可能性はやや高いと考えられます。次に、書字障害です。漢字からも想像できる通り「書き」が困難な障害です。具体的には、言いたい事を文章で書くのが難しい、「わ」と「は」、「お」と「を」のように耳で聞くと同じ音の表記に誤りが多い、「め」と「ぬ」、「わ」と「ね」、「雷」と「雪」のように形態的に似ている文字の誤りが多い、漢字の書き間違いが多いなどの特徴があります。先ほどの読字障害に比べても、のび太がどんな文字を書いているのかを見ればいいのでわかりやすそうですね。例えば、「もはん手紙ペン」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん7巻）では、のび太は、左の画像のような手紙を書きました。右のコマを見れば「お」と「を」を間違っていますね。また、左のコマでは、これだけしか書けないのか？とドラえもんに言われて、書く事がないとのび太は言っていますね。のび太が本当にこれだけしか言いたい事がないのかは分かりませんが、文章を書くのが苦手で書き間違いもよくすると分かりますね。他にも、「ライター芝居」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん4巻）で、のび太は、文字の書き間違いがかなり酷いと分かります。文章を書くたびに、内容の薄さや誤字について指摘されています。逆に指摘されなかった事がないと言えるほどです。この事からのび太が、「学習障害（LD）」の書字障害に該当すると考えられます。次に計算障害です。漢字からも想像できる通り「計算」が困難な障害です。九九がいつまでも覚えられない、高学年になっても計算が遅い、繰り上がり・繰り下がりが理解できないなど、数を数える事が苦手という物です。「弟をつくろう」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん4巻）によると、のび太の頭の能力は小学2年生で止まっているそうです。なので、かけ算までは、できるそうですが、割り算ができないらしいです。他にも「世の中うそだらけ」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん3巻）では、のび太は簡単な計算ができずにジャイアンに騙されていました。発達障害を持っている人は騙されやすいと言われますが、この場合は、ジャイアンは自分よりも計算ができなさそうなのび太なら騙せると考えたのではないのでしょうか。「グラフはうそつかない」（藤子・F・不二雄大全集ドラえもん5巻）でも、ジャイアンは、のび太より頭がいいという事が分かっています。ちなみに、「注意欠如・多動症（ADHD）」を持っている人の多く（90%以上）は、「学習障害（LD）」も併発しているそうです。仮に、ジャイアンものび太もADHDとLDを併発していたら、発達障害を持った2人が騙す、騙されるの関係になるので、不思議な世界観だと思いました。この他にも、のび太は数字を使うのが苦手なシーンがたくさん見られるので、「学習障害（LD）」の計算障害に該当すると考えられます。これまで、読字障害、書字障害、計算障害の3つについて説明しました。そもそも、「学習障害（LD）」は、「限局性学習症（SLD）」とも言われています。前者は、今まで説明してきた3つに加えて、手先の不器用さや言葉の偏りや使い方の困難さも含む物になっています。後者は、今まで説明してきた3つの事に限られます。なぜ呼び方が2つもあるのかは諸説ありますが、前者は教育

者、後者は医者の考えです。すなわち、人が違えば定義も違うという事です。

最後に、「運動症群」について考えていきたいと思います。この「運動症群」の1つに、発達性協調運動症がありますが、これは簡単に言うと不器用という事になります。先ほど述べた、「学習障害 (LD)」の不器用と非常に似ていますが、筋肉の組み合わせや筋肉が適切に動くかというように、体が思うように動くかという意味で、区別されます。のび太の場合は、先述のようにあやとりを上手くでき、さらには、足でけん玉をする事もできる（設定だった）ので、発達性協調運動症に該当しないと考えられます。

